

# 県連ニュース

2023年9月 NO.554号



『アイガー麓のお花畑』

滋賀県勤労者山岳連盟

## 2023年9月号 目次

・リレーエッセイ      シャクナゲ溯行クラブ      太田 理

### <案内>

- ・登山の祭典案内
- ・ハイキングレスキュー講習会 予告案内

### <報告>

- ・初級登山教室      7/23 実技 沢登り
- ・交流山行      山の会オフトレイル      7/15～16 加賀大日山と越前甲

・ぐうたら会長のつぶやき

・9月～11月 行事予定表

表紙の写真：アイガー麓のお花畑

撮 影 者 : 田中 政行

撮 影 時 期 : 2023.7.16

リレーエッセイ

雑感

シャクナゲ溯行クラブ 太田 理

NHKの朝ドラで、牧野富太郎氏の生涯が放送されている。大垣書店の売り場にも、先生の植物画、植物図鑑が並べられ、商売の種にもなっている。図版はカラーではなく、白黒の線描が主だが、植物全体、蕾み、花卉、種子、断面、拡大図など様々な図を、1ページに収めるためには、優れた方法であるようだ。

10年くらい前から、ボランティアで公園や歩道のゴミ拾いをし、草抜きや落ち葉掃きもしている。歩道は花壇の内外だけで判断して、作業を進めやすいが、公園の地面に生えた雑草は、一概には抜きにくい。

市が派遣した植木業者が入ると、草刈り機で一面を均等に刈ってしまうのだが、ボランティアが作業すると、子供が遊べるように、シロツメクサやタンポポを残したり、ナガミヒナゲシは花が落ちるまで残しておいたりする。花壇の中だと、カラスノエンドウやスズメノエンドウが抜きやすい。色々と区別しようとする、花の咲いていない時期も学習しないと難しい。

園芸種が逃げ出したり、外来種が全国的に拡がったり、何が雑草で何がそうでないのか、もはや判然としにくい。歩道の花壇の横に、鉢植えの植物があったり、手入れされていたり、されていなかったり、おせっかいなボランティアを続けるのは、大変である。

雑草と呼ばれても、光合成していない植物がほとんどない事実を考えると、人間の役に立たない種類は存在しない。特に、歩道に生える雑草は、畑の作物の生育を妨げている訳ではないので、引き抜く行為が優れているのか、疑問がわいてくる。もっとも、歩道の歩きやすさや、枯れ草がゴミに変わる後始末の事を考えると、幼生の内に抜くのが、手間とゴミの量として効率が良いと言える。

つい最近、ビッグモーターが除草剤を散布して、歩道の植木や立木まで枯らしたというのがニュースになった。除草剤を使用する話は、歩道の清掃作業の中でも出てくる。気になった時に、草抜きするだけですむのに、何もかも枯らしてしまうのは、非常に残念だ。

世界的に山火事が増えている。温暖化による乾燥が原因と言われているが、それだけではない。枯れ枝、枯れ草、落ち葉が、立木の足元で、処理されないまま放置されていることで、山火事の際の焚き付けの燃料になっている、児童公園の雑草も、枯れ草のまま残しておいては、火災の危険があり、防災上も草刈りは欠かせない。

伊吹山の登山道が、大雨の土石流で荒れ、登山口で通行止めされたらしい。鹿の食害で裸地化が進み、テレビの映像では、避難小屋も被害を受けたようだが、通行止めはよほどの事態と推察する。登山者の踏跡から自然に登山道が作られるという方向にはならないので、どこかで予算が付かない限り、登山道は回復せず、登山自体が、かなり先の話になりそうである。

2023年

第61回

# 登山祭典



(日程) 2023年 **10月22日(日)**  
(雨天中止)

**(裏面をご覧ください)**

参加したいコースの連絡先(メール、又は電話)へ直接お申込み願います。  
参加定員の関係で、お早めをお願いします。詳しくは、各コースの連絡先へ



<主催>

**滋賀県勤労者山岳連盟**

大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1階 (〒520-0047)

大津市市民活動センター スモールオフィス No.13

担当窓口連絡先 070-9002-3325

# 2023登山祭典

秋の1dayハイクに出掛けてみませんか!

**実施決定!** 10月22日(日) <雨天中止>



エリア・目的地	集合場所	歩行時間	コース	参加費	担当山岳会・申込先	定員	締切
<b>Aコース</b> <比良エリア> ヤケオ山	JR湖西線 北小松駅 <b>8:00 集合</b>	約6時間 <雨天中止> (健脚向き)	JR北小松駅～登山口～ 涼峠～ヤケ山～ヤケオ山～ (中井新道)～P761～ 峠～登山口へ <JR近江舞子駅にて解散>	保険代他 500円	<b>【滋賀山友会】</b> (豊田)  toyoda@eos.ocn.ne.jp	一般10名	10/10 
<b>Bコース</b> <湖北エリア> 余呉トレイル 音波山	JR各駅集合 ・堅田 7:35 ・小野 7:45 ・和邇 7:50  ※いずれかのバスに乗車	約5時間 <雨天中止>	365号栃ノ木峠手前～765m 地点～巡視路分岐～音波山 (余裕あれば902m地点へ) ～その後、往路を戻る <野点を実施します>	当会員・会友 ・会員家族 2500円 ・一般 3700円  ※バス代 保険代等含	<b>【比良雪稜会】</b> (西村)  kazuyo-buna@r.river.sannet.ne.jp  090-8932-2460 077-594-0454 (兼FAX)	50名 定員になり次第締切	10/15 
<b>Cコース</b> <大津エリア> 太神山	アルプス登山口 <b>9:20集合</b>	約5時間 <雨天中止>	アルプス登山口 ⇄ 迎不動 ⇄ 泣き不動 ⇄ 太神山 (不動寺)  <往復コース>	保険代他 500円	<b>【ちごゆり山歩会】</b> (柴田)  0771-23-0845 (兼FAX) ※ 090-5660-2043	30名	10/14
<b>Dコース</b> <湖北エリア> 天吉寺山	JR長浜 <b>9:00集合</b>  JR堅田 7時集合	約5時間 (休憩含) <雨天中止>	～湖北三大霊場～ 登山口駐車場9:30 登山口 ～ 大吉寺 ～登山口 <周回コース>	保険代他 500円	<b>【山の会オフトレイル】</b> (谷内)  tomo-hira3rose @rouge.plala.or.jp  090-2280-9979	10名	10/19 
<b>Eコース</b> <京都北山> 天ヶ森	JR湖西線 JR小野駅 <b>8:00集合</b>	約6時間 <雨天中止>	途中越 ～ P812 ～ ミタニ峠 ～ 天ヶ森 ～ 小出石	当会会員外 300円	<b>【シャクナゲ遡行クラブ】</b> (太田)  090-2283-1620	会員以外 3名 ※県連会員限定	定員になり 次第締切
<b>Fコース</b> <湖東エリア> 八幡山	八幡山ケーブル 乗り場 <b>10:00集合</b>	約4時間 <雨天中止>	百々神社 ～ 八幡山 ～ 日牟礼八幡神社	保険代他 300円	<b>【湖南岳友会】</b> (重井)  ibuki-3 @iris.eonet.ne.jp	一般20名 会員 制限なし	10/15 

◇天候やその他の事情で、コースを一部変更する場合があります。歩行時間はおよその目安です。

◇【問い合わせ・申し込み】

参加ご希望の方は、申込先へ電話、FAX、メール（QRコードも）等でご連絡下さい。定員があるコースはお早めに願います。

**住所、氏名、年齢、携帯TEL、緊急連絡先名・携帯TELを明記。参加費は当日徴収致します。**

◇【持ち物】

昼食、飲物、雨具、防寒具、地図、着替え、ゴミ袋、健康保険証（写し）など  
登山に適する服装と登山靴でご参加願います。（コースにより、登山靴必須条件有り）

◇【注意事項】

各コースとも、集合場所までとその先一部の交通費は参加者の個人負担となります。  
主催者は、事故の場合可能な範囲で応急手当をしますが、その後の責任は一切負いません。

参加者それぞれの責任に於いて行動して下さい。当日体調が良くない方は、申込先に連絡のうえ参加を見合わせて下さい。



## 案内

### 「ハイキングレスキュー講習会」(県連主催)

日時 2023年11月12日(日) 受付8時30分 9時～15時

受付・集合場所 皇子が丘公園 駐車場 (湖西道路直下) 東屋

持ち物 山行時の日帰りハイキング装備

緊急時に備えて常々携行しているスリング・カラビナ、細引き

内容 細引きの結び方、簡易ハーネスの作り方、

カラビナスルー、事故者の所まで行くために細引き

で丸結びを使った斜面の降り方登り方の技術習得

申し込みは、各会でまとめてお願いします。 11月5日(日)〆切

楽しくハイキングするために、緊急時の対応を知っていると安心です。

危険なハイキングなんてしてない、事故なんて起こらない、思っていないませんか。

何が起こるかわかりません、万が一の時に、自分たちで最善な対応が出来るように講習に参加して、体験してください。たくさんの方の参加をお願いします。

伊吹山の災害支援を検討している会員へ

7月12日の大雨により伊吹山への登山が禁止になっていることはご存じと思います。米原市のHPに入山禁止の間、伊吹山4合目から6合目でニホンカモシカの銃器による駆除を行うことも明記されています。

返礼品のないふるさと納税制度で災害支援ができます。

伊吹山が整備されて、また登山が出来るように願って ご協力をお願いします。

寄付申請用紙による方法をお知らせします。



kihumousidesyo.  
pdf

# 2023 年初級登山教室 実技・沢登り I

日時 7月23日(日)

場所 比良 白滝谷 坊村～牛コバ～夫婦滝～坊村

目的 沢登り実技

参加者 スタッフ N 森(講師 CL)・ K 口(SL) ・ T 本・ Y 田・ S 口・N 村・S 水

受講生 Y 元り・Y 元あ・ S 古(記録)

通過タイム 坊村8:00～9:20 牛コバ入渓～白石谷出合～12:30昼休憩～14:30夫婦滝～15:00下山開始  
17:30-坊村

## 講習内容

- 1 集合場所駐車場にて自己紹介
- 2 牛コバで、沢装備準備
- 3 斜滝・ナメ滝など遡行。深いところは一部泳いだところもあった。最後は18mの滝を、スタッフ二人が先行し、滝の終了点の岩に支点を取り、ロープをムンターにして1段目まで講習生を上げる。2段になっているため、さらにその上で別のスタッフが、スリングで講習生を確保し、終了点まで上げる。
- 4 登山道を下山。途中ハチの大群を避けて、登山道を外して迂回。
- 5 沢は高巻きの技術も必要。クライミングの技術も必要。セカンドの人はロープをたるませないこと。たるませた分、落ちると危険。滑りやすい岩を上がる時、まっすぐ上がろうとせず、手でささえ足をつっぱって、足に体重をのせて上がるとよい。スメアリング・フラットフィッシングを意識するとまさつの作用で滑りにくくなる。

## スタッフ 一口感想

沢はワイルドで色々変化もあり面白いのですが、その分リスクも大きくなります。特に尾根道と異なるのは、足場やホールドが不安定なこと、滑りやすいこと、水に流されたり溺れたりする危険があること等、不確定要素が多いことだと思います。それらに対処するためには、十分な知識を持ち、「もしここでこんなことが起こるとどうなるか？」を常に予測しながら、確信の持てる範囲で動くことです。チャレンジするよりも、楽しいと思えるレベルの沢で経験を重ねると、安定感が身につくと思います。登り方について少し補足しておく、平らな面でもよく見ると引っ掛かりのある窪みがあったり、水中にもいい手掛かり・足掛かりがあったりするので、落ち着いてよく探ってみること、またどの方向にどう力を掛けると安定するか、常に考えながら手足を動かすことを心がけると、意外にすんなりと乗り越せるかもしれません。なお、今回下山中に前のパーティが蜂に襲われ、高巻きしてルートを迂回しなければならない事態になりました。沢に限りませんが、山ではそういったことも念頭に置いておく必要があると思います。(N 森・CL)

梅雨が明け天候も水量も安定した中で実施できたと思います。人数が多いので(スタッフの方が多かった) 遡行するのが大変かな?と思いましたが、受講生の皆さんもサクサクと上がられて、先頭を歩く身としても安心して見る事が出来ました。あとは際どい所でのホールドや立ち込みを数をこなしながらマスター出来ればと思います。楽しかったです。(K 口・SL)

今回の白滝谷は好天のもと、とても歩きやすい沢登り実技だったと思います。一歩ずつ足下を確かめながら進むことや滝を登る時の足の置き方なども基本的なことを経験するのに適していたと思います。しばらく待機している時など寒く感じる人もいたようでしたが、メンブレン素材のタイツなどはわりと防寒によいと思いました。(むしろ他の行動時に暑いくらい) 時間は少し遅れましたが、余裕のある山行で事故やけがもなく楽しい沢登りを経験できました。皆さんありがとうございました。(T 本)

夏はやっぱり沢に限る!

この時期の里山は暑すぎて山歩きはつらいけど、溪流の遡行なら涼やかで爽快な山行になる。

沢登りの魅力はその清涼感だけではなく、人工物のない原始の自然を満喫できること、スリリングでアドベンチャー的な探検気分を味わえること。今回はそういった沢登りの醍醐味を十分に楽しめた。

受講生のみなさん、比良や鈴鹿には沢登りルートがいっぱいあります。どんどん行って経験を積んで立派な沢やになってください。(Y 田)

昨年の受講に続き 2 回目の沢登り。なかなか経験することが難しいので、良い経験をさせていただきました。前回より水量も多く難しく感じました。周りの様子を見て、もう少し余裕をもって取り組めるようにしたいです。(S 水)

昨年の初級登山教室の実技で沢登りを経験させていただき、今回で 2 度目です。掴む所、足を置く所、上手く見つけられず何度か滑りました。また、待っている間に体が冷えてしまい、思うように動けなかったり。防寒対策も考えないといけないと思いました。(N 村)

昨年の教室の卒業生スタッフとして、力不足ながら参加させていただきました。

白滝谷は以前初めて沢登りを体験した場所でしたが、天候や水量によって、沢の印象が随分違うと感じました。流れて底が見えない時にしっかり足で探ることや、苔が少なく滑りにくいのはどういう場所かなど、机上ではわかりにくい感覚を少しずつ思い出せました。夏ならではの醍醐味ある大好きな活動ですが、常に危険が伴う(蜂も!) こともあり、基本を復習できる機会でした。ありがとうございました。(S 口)

受講生 一口感想

すごく楽しみにしていた沢登りは、想像以上に難しく自分の認識の甘さに反省しました。苔のついた岩はつるつる滑り足がかけられず、水流に押し戻され、夫婦岩の手前の 18M の滝はまっすぐに進もうと挑戦してみましたが、太刀打ちできませんでした。経験を積んで技術を磨き、滝と会話しながら完登できるように頑張りたいと思います。

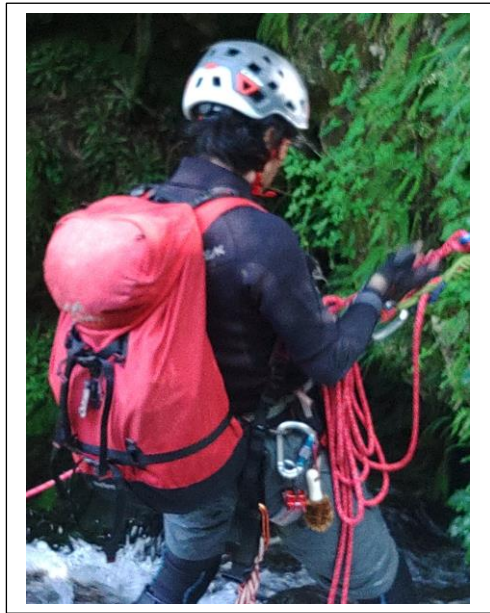
(Y 元り)

初めての沢登りは約 9 時間の長丁場の山行でしたが、疲れは感じず感動と興奮で終わった 1 日でした。これくらいの滝なら行けそうと軽い気持ちで入るも、水流の激しさと重さに体が持っていかれ前に進めず、足も重たくて上からず手で足を持ち上げて岩に乗せると、バランスを崩さないように腕をいつも以上に酷使し、川のシャワーを浴びて気持ちよく進めると想像していた沢登りとは全く違っていました。高巻きは楽な迂回道のことだと思っていましたが、ほぼ直角ではと思うようなところを木の根っこや僅かに出てる岩を掴みながら注意深く登り降りしたりと、こちらもなかなかハードでした。危険は多いけれど楽しく進んでいけたのはスタッフの方の体を張った安全対策と数々のフォローのお陰です。本当にどうもありがとうございました。(Y 元あ)

久しぶりの沢でした。前日に装備を準備しながら、なるべく滝は巻きたい、滝から落ちないか、滝つぼでおぼれないか、と、内心、不安をかかえながらの入渓。ヘルメットは何回も確認し、最後まで緊張した 1 日でした。途中、やさしい沢の流れのところは、水の冷たさが心地よく、景色を楽しむ余裕もありました。そんなときは、夏ならではの沢歩きをしっかりと楽しむことができました。最後の滝は、上からロープを出してもらわなかったら、到底登ることができなかったです。ロープなしで滝をスイスイと先行されるスタッフの方とは技術が雲泥の差だな、と改めて思い知りました。また、遡行が終了し、下山する道は登山道の幅がせまく、気をゆるすと、滑落しそうでした。さらに、ハチを避けるため、高巻きした道も、沢まで落下しそうで緊張の連続でした。もし登山道がぬれていたら、さらに危険。最後まで気



のぬけない！日でしたが、なんとか怪我無く下山でき、達成感を味わえました。(S古)



## 交流山行報告 (7月号県連ニュースで案内)

7月15日～16日の加賀大日山・越前甲交流山行は他会参加者が無く、交流山行としては成立せず会山行として実施しました。  
山行の様子は、オフトレイルブログに掲載しています。

<https://norabeko.blog.fc2.com/blog-entry-331.html>

<https://norabeko.blog.fc2.com/blog-entry-332.html>



## ぐうたら会長のつぶやき

以前今村翔吾さんの「茜唄」を紹介しましたが、今回は同じ今村さんの「八本目の槍」を紹介します。

賤ヶ岳七本槍はほとんどの皆さんはご存じですよネ。加藤清正、福島正則、加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、糟屋武則、片桐且元の7人です。実際は9人いたとか言う話もありますが、それは置いて8本目の槍とは石田三成のことで。

この個性豊かな七本槍が、それぞれの目を通して石田三成の姿を形作ろうとしています。

1 本目は加藤清正(幼名加藤虎之介)です。比類なき名将と言われている清正の成長と、それを支えた三成とのかかわり、そして関ヶ原の戦いでなぜ東軍についたのか、朝鮮征伐の裏話など興味は尽きません。

2 本目は糟屋武則(志村助右衛門)です。七本槍きっての槍の名手だが、長久手の戦いの最中に相手を殺そうとして自分が殺した義兄の顔を思い出、槍を捨てて逃げ出してしまったことから、腰抜け助右衛門と言われるようになります。そんな助右衛門を支えたのも三成です。そんな三成に「何故俺を助けたのか」と聞いたら、「戦が無くなった日、お主のような者が活きる」と言ったそうです。関が原では西軍につき、三成の逃亡を助けるために討ち死にします。

3 本目は脇坂安治(脇坂基内)です。「女のために出世をしたい」と言い続けます。そんな基内が丹波の戦いの中で八重という二重スパイをしている女に惚れてしまいます。関が原では西軍につくのですが、八重に説得されて東軍に寝返ってしまいます。五万三千石の大名になったのですが、大阪の陣では城内に立てこもる八重に気兼ね？して自らは出兵せず息子に任せます。

4 本目は片桐且元(片桐助作)です。特別な才能はないが、どんな役目でも地道に取り組むことで、みんなの信頼を得ます。死にゆく秀吉が枕元に助作を読んで秀頼を頼むと遺言します。三成から豊臣家存続のための申し開き11か条を託され、すらすら言えるように千回以上練習して徳川に伝えます。何とか和睦の条件を整えたのですが、それが大阪側に受け入れられず裏切り者として大阪城から追放されます。豊臣が滅ぼされた後、徳川家康の命令を受けた七本槍の一人加藤嘉明に毒殺されます。「私ほど凡庸な男に、大御所も念入りなことだ。今更、何ができようか」と言って受け入れたのです。

5 本目は加藤嘉明(加藤孫六)です。実は徳川の間者なのです。それに気づいた三成は、そのまま続けろと言います。そして自分の考えた計略を孫六を通して七本槍に伝えて自分を襲撃させるのです。そして佐和山城に隠居して次の策を練る時間をつくるのです。

6 本目は平野長泰(平野権平)です。賤ヶ岳で活躍した後は、特別な手柄も立てず五千石のままで、ほかの者が出世するのを妬みます。そんな権平に三成は「殿下が何故、大名に取り立てなかったか考えたことがあるか」と問います。「それはお前が学ぶこと止めたからだ」と言います。他の七本槍はそれぞれに努力し学んでいるからこそ出世もできるのだと奮起を促します。

最後の7本目は福島正則(福島市松)です。武闘派と言われる市松は、処刑前の三成と会って七本槍を訪ねて話を聞くように仕向けられます。それぞれの話を聞くうちに三成の雄大な計画を知ります。たとえ徳川の世になっても豊臣家を存続させるにはどうするか？大阪城と秀頼の威光で豊臣があるという言葉に、関が原以来豊臣家を存続させてきたのは8本目の槍だと言葉を投げて大阪城を後にします。

この本は、今村翔吾という作家が創造した石田三成像を間接的に表現しています。誰も本物の石田三成がどんな人だったか知らないからどんな表現をしようと自由ですネ。

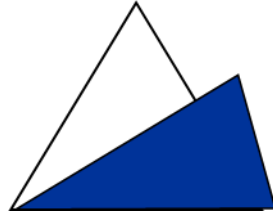
## 行事予定

				1～3	北穂高	OT
				2～3	山伏～鹿の子池	OT
				2～3	赤岩岳・五老岳	岳友
6		第7回ZOOM理事会20:00～				
	10	初級登山教室クライミング実技3		10	交野 星のブランコ	ちご
9	13	初級登山教室座学1「テント泊」				
				16～18	立山・雷鳥沢 集中登山	岳友
				16～18	南ア深南部・黒沢山	OT
				17～18	北八ヶ岳	雪稜
				23	鈴鹿縦走(釈迦が岳～石樽峠)	雪稜
				24	猪子山(鷹見物)	ちご
	30	初級読図コース「長等山」		30	交流山行「鬼が岳」(福井)	OT
				30～10/1	奥穂・前穂	OT
	1	初級登山教室クライミング実技4				
				6-11	韓国の山(伽智山・金井山)	OT
				8	頂山・オハイ	岳友
	11	第8回ZOOM理事会		未定	フジバカマを見に 米買道	ちご
10	14-15	初級登山教室テント泊実技	10			
	22	登山祭典		22	登山祭典(余呉トレイル)	雪稜
				22	登山祭典(太神山)	ちご
				22	登山祭典(比良・ヤケオ山)	山友
				22	登山祭典(八幡山)	岳友
	28-29	初級登山 クライミング実技5 泊山行		22	登山祭典(天ヶ森)	シャク
				22	登山祭典(天吉寺山)	OT
				29	鈴鹿縦走(武平峠～根の平峠)	雪稜
				29	箕作城跡～観音正寺、織山	山友
				3	飲み水水質調査・放射線測定(比良山系)	雪稜
8		第1回代表者会議・第9回理事会		3-5	雨飾山	岳友
	12	ハイキングレスキュー講習会		12	高取山	ちご
11						
				19	鈴鹿縦走(藤原岳～御池岳)	雪稜
				19	信貴山	岳友
				23	高取山	雪稜
				26	金勝山	ちご
	26	初級読図コース「壺笠山」				
				30-12/10	タスマニア島クレイドル山	OT

【会名略号】 山友:滋賀山友会、岳友:湖南岳友会、雪稜:比良雪稜会、ちご:ちごゆり山歩会

シャク:シャクナゲ溯行クラブ、OT:山の会オフトレイル

スキーネット;山スキーネット滋賀、CSS:クライミング研究会滋賀 初級:初級登山教室



2023年10月号の原稿は、9月15日〆切です。  
10月号のリレーエッセイ、写真共滋賀山友会の担当です。

原稿の投稿先は 宮内 [m-miyauchi@ares.eonet.ne.jp](mailto:m-miyauchi@ares.eonet.ne.jp)  
藤野 [kawahaakebono@gmail.com](mailto:kawahaakebono@gmail.com)  
菅 [nokomama.2016@gmail.com](mailto:nokomama.2016@gmail.com)

用紙サイズは A4、フォントは本文11~12、タイトル14~16、余白は19mmとし  
原本とPDF で、写真はPDF でお送り下さい。

『県連ニュース2023年9月 NO.554号』

発行日：2023年8月20日

### 滋賀県勤労者山岳連盟

〒520-0047  
大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F  
大津市市民活動センタースモールオフィス内  
メールボックス NO13

Email [shigarosan@gmail.com](mailto:shigarosan@gmail.com)  
ゆうちょ銀行(店名418)  
普通 0239956  
<https://www.shigarosan.com/>

発行責任者 宮内 眞子  
編集委員 藤野 健太郎 菅 泉